厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

患者体験調査項目における欠測値に関する研究

研究分担者　脇田　貴文　関西大学 社会学部 教授

研究要旨　2019年患者体験調査における、欠測値に関して検討を行った。その結果、具体的な傾向は見いだせなかったが、分岐型の項目、1ページに存在する項目数等が欠測値の過多に関わっている可能性が示唆された。

A．研究目的

本研究は、2019 年の患者体験調査における欠測値に関して検討を行った。欠測値が生じる原因としては、回答者の回答モチベーション、質問項目数、回答形式、質問項目のわかりやすさ等が影響する。

患者体験調査では、例えば、がん診断時に就労している人と就労していない人によって回答する項目が異なる分岐型の項目が多用されている。また、Likert 型の項目のように、1 ページに複数の項目（今回の患者体験調査では P8 で 13 項目）が含まれる場合もあった。これらの要因が欠測値に影響している可能性がある。

そこで、次回以降の患者体験調査に向けてより適切な調査票、回答者の回答負担を軽減する調査票を作成するために欠測値の検討を行った。

B．研究方法

2019 年の患者体験調査のデータを用いた。

C．研究結果

調査票のページが進むと欠測値が生じやすくなるかを検討したところ、全 16 ページのうち、P6 において 20%程度の回答者に欠測値が認められ、P8 で 10%程度であった。ページの進行とともに欠測値が増加する傾向は見られなかった。ただし、P6 は妊孕性に関わる項目が含まれるため、回答者の判断で回答をしなかった可能性が高い。

1 ページに含まれる分岐型の項目数が欠測割合に影響するかを検討したところ、分岐数そのものが影響するというよりは、分岐の際のレイアウト、複雑さが影響している可能性が示唆された。

Likert タイプの項目（P8）では、5%～8%の欠測が生じていた。そのうち、このページ自体を飛ばした回答者が 4%程度存在した。

D．考察

必ずしもページが進むと回答の断念に繋がるわけでは無いことが示唆された。ページの進行よりはページに含まれる項目数に影響されると考えれる。Likert タイプの項目に関しては、1 ページの項目数が多いために回答が面倒になり回答をしないケースが存在することが示唆された。また、分岐型の項目に関しては、複雑なレイアウトになると欠測値が増加すると考えられる。

E. 結論

欠測値をいかに減らすかを検討することは、回答者の負担を減らす、適切な調査結果を得るために必要不可欠である。今回の結果を踏まえ、次回調査の調査票の設計を工夫する必要がある。

G．研究発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし